固定資産②

日商簿記３級で学習した内容

・費用の前払、収益の前受、費用の未払、収益の未収

未決算（臨時損失）

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

① 臨時損失の内容を理解しよう！

② 仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「未決算」勘定（資産）

「保険差益」勘定（特別利益）

「火災損失」勘定（特別損失）

災害、事故などにより固定資産の価値が減少した場合、これに対応して臨時的に行われる帳簿価額の切下げを**臨時損失**（りんじそんしつ）といいます。以下、火災を例に説明します。

（１）保険金をかけていない場合

焼失した固定資産の火災時における帳簿価額を「**火災損失**」勘定（**特別損失**）で処理します。

例題 **建物（取得原価10,000円、期首の減価償却累計額2,000円、期首から火災発生時の減価償却費1,000円）が火災により焼失した。なお、当該建物には火災保険契約を締結していない。記帳方法は間接法による。**

借方科目	金額	貸方科目	金額
建物減価償却累計額	**2,000**	**建物**	**10,000**
減価償却費	**1,000**		
火災損失	**7,000**		

火災損失：10,000－2,000－1,000＝火災時の帳簿価額7,000

この仕訳は以下のように分解するとわかりやすいでしょう。

① 期首から火災時までの減価償却費の計上

借方科目	金額	貸方科目	金額
減価償却費	1,000	建物減価償却累計額	1,000

② 減価償却費の計上後に火災が発生

借方科目	金額	貸方科目	金額
建物減価償却累計額	3,000	建物	10,000
火災損失	7,000		

（２）保険金をかけている場合

① 火災発生時

火災により固定資産が焼失した場合で、保険金が確定するまで固定資産の帳簿価額を「**未決算**（みけつさん）（または**火災未決算**）」勘定（資産）に振り替えます。

例題 **建物（取得原価10,000円、期首の減価償却累計額2,000円、期首から火災発生時の減価償却費1,000円）が火災により焼失した。なお、当該建物には火災保険契約を締結している。記帳方法は間接法による。**

借方科目	金額	貸方科目	金額
建物減価償却累計額	**2,000**	**建　　　物**	**10,000**
減　価　償　却　費	**1,000**		
未　　決　　算	**7,000**		

未決算：10,000－2,000－1,000＝火災時の帳簿価額7,000

この仕訳は以下のように分解するとわかりやすいでしょう。

① 期首から火災時までの減価償却費の計上

減　価　償　却　費　1,000 / 建物減価償却累計額　1,000

② 減価償却費の計上後に火災が発生

建物減価償却累計額	3,000	建　　　物	10,000
未　　決　　算	7,000		

② 保険金確定時

保険会社から保険金支払の旨の連絡を受けた場合、確定した保険金の金額を「**未収入金**」勘定（資産）で処理します。また、保険金の金額が「未決算」勘定の金額より多額である場合、その差額を「**保険差益**」勘定（**特別利益**）で処理し、少額である場合、「**火災損失**」勘定（**特別損失**）で処理します。

「未決算」勘定（帳簿価額） < 保険金の金額 → 保険差**益**（**特別利益**）
「未決算」勘定（帳簿価額） > 保険金の金額 → 火災**損失**（**特別損失**）

例題　未決算勘定7,000円で処理していた焼失した建物に関して、保険会社から保険金8,000円を支払うとの連絡があった。

借方科目	金額	貸方科目	金額
未収入金	**8,000**	**未決算**	**7,000**
		保険差益	**1,000**

例題　未決算勘定7,000円で処理していた焼失した建物に関して、保険会社から保険金5,000円を支払うとの連絡があった。

借方科目	金額	貸方科目	金額
未収入金	**5,000**	**未決算**	**7,000**
火災損失	**2,000**		

建設仮勘定

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　建設仮勘定の内容を理解しよう！

②　仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「建設仮勘定」勘定（資産）

建設仮勘定（けんせつかりかんじょう）とは、現在建設中や製作中の固定資産をいいます。

建物、構築物、機械装置などの建築や製作は、完成して引渡を受けるまでに長期間を要するので、建設中や製作中に代金の一部を手付金として支払うことがあります。この建設中や製作中に支払った代金の支払額を「**建設仮勘定**」勘定（資産）で処理しておき、完成時に各固定資産勘定へ振り替えます。

建設仮勘定は未だ完成していない固定資産であり、使用していないため減価償却は行いません。

例題　**建物の建設代金の手付金として50,000円を小切手を振り出して支払った。**

借方科目	金額	貸方科目	金額
建設仮勘定	**50,000**	**当座預金**	**50,000**

例題　**建設中の建物が完成し、建設代金の残金30,000円を小切手を振り出して支払った。なお、工事代金としてすでに50,000円を支払っている。**

借方科目	金額	貸方科目	金額
建物	**80,000**	**建設仮勘定**	**50,000**
		当座預金	**30,000**

固定資産の割賦購入

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　割賦購入の内容を理解しよう！

②　仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「未払金」勘定（負債）

「営業外支払手形」勘定（負債）

「支払利息」勘定（営業外費用）

「前払利息」勘定（資産）

固定資産を割賦（分割払い）で購入した場合、現金で一括払いにより購入した場合と比べて、支払期間が長期になる分だけ金利（利息）分が上乗せされることがあります。

固定資産の取得原価は原則として、利息は含めませんので、当該利息分は**支払利息**として処理します。したがって、固定資産の取得原価は現金で購入した金額（現金正価）となります。

（１）購入時に利息分をすべて支払利息勘定で処理する方法

割賦購入時に利息分を「**支払利息**」勘定（営業外費用）で処理し、支払総額を「未払金」勘定（負債）で処理します。なお、手形を振り出した場合には、「**営業外支払手形**」勘定（負債）で処理します。

例題

①　備品100,000円を購入し、代金は１回当たり22,000円の5回分割払いとした。なお、利息分については全額支払利息勘定で処理すること。

②　第1回目の支払日が到来したため、未払金を当座預金により支払った。

③　決算になった。利息のうち8,000円は次期に帰属する分であった。

①　購入時

借 方 科 目	金　額	貸 方 科 目	金　額
備　　　品	**100,000**	**未　払　金**	**110,000**
支 払 利 息	**10,000**		

未払金：22,000×５回＝110,000

支払利息：未払金110,000－備品100,000＝10,000

②　未払金の支払

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
未　　払　　金	**22,000**	**当　座　預　金**	**22,000**

③　決算時

　購入時に利息分を全額「支払利息」勘定（営業外費用）で処理していますので、決算において、次期以降分があれば、「**前払利息**（前払費用）」勘定（資産）で処理します。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
前　払　利　息	**8,000**	**支　払　利　息**	**8,000**

（2）購入時に利息分をすべて前払費用で処理する方法

割賦購入時に利息分を「**前払利息（前払費用）**」勘定（資産）で処理し、支払総額を「**未払金**」勘定（負債）で処理します。なお、手形を振り出した場合には、「**営業外支払手形**」勘定（負債）で処理します。

例題

① 備品100,000円を購入し、代金は5回分割払いとし、額面22,000円の約束手形を５枚振り出した。なお、利息分については全額前払利息勘定で処理すること。

② 約束手形１枚の満期日が到来したため、当座預金により決済した。

③ 決算になった。利息のうち8,000円は次期に帰属する分であった。

① 購入時

借方科目	金額	貸方科目	金額
備品	**100,000**	**営業外支払手形**	**110,000**
前払利息	**10,000**		

営業外支払手形：22,000×５枚＝110,000

前払利息：営業外支払手形110,000－備品100,000＝10,000

支払総額 110,000		第１回支払	第２回支払	第３回支払	第４回支払	第５回支払
	利息分 10,000	支払利息 2,000	前払利息 2,000	前払利息 2,000	前払利息 2,000	前払利息 2,000
	現金正価 100,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000

② 手形の決済

購入時に利息分を全額「前払利息」勘定（資産）で処理していますので、支払った分に対応する利息を「前払利息」勘定（資産）から「支払利息」勘定（営業外費用）に振り替えます。

借方科目	金額	貸方科目	金額
営業外支払手形	**22,000**	**当座預金**	**22,000**
支払利息	**2,000**	**前払利息**	**2,000**

支払利息：前払利息10,000÷５枚＝2,000

③ 決算時

支払時に当期の支払利息の処理を行っているため、決算整理では仕訳はありません。